

研究主題

## 進路指導の諸課題を 解決するための実態調査・研究

### 進路委員会

#### 1 はじめに

愛知県の公立高等学校入学者選抜制度では、平成元年度より複合選抜方式が導入され、平成19年度には、群及びグループが一部改編された。現在の公立高等学校の入学者選抜制度では、推薦制度を含めて、受検機会が複数化され、幅広く学校選択できる制度として根付いてきている。また、私立高等学校についても、推薦入試日程・一般入試日程が考慮され、複数校の受験が可能で、生徒の受験機会の保障がなされている。

このような現状を踏まえ、進路委員会では、中学校側が、入学者選抜制度を十分に理解し、その都度の変更に適切に対応できるよう情報提供してきた。また、これらの制度維持に当たって、中学校教育の正常化、受験競争の緩和、進路事務の簡素化の観点から、計画進学率の適正化・合否結果の一括受領の拡大について、中学校側の意見を関係機関に要望してきた。

その結果、一括受領については、平成24年度入試から新たに尾東地区高校5校、愛知地区中学校12校が参加した。

進路委員会では、進路指導の基礎資料として、中学校卒業生数、過去の進路状況、現3

年生の進路希望状況を把握し、現状分析・入試分析を行い、さらに年度末にはアンケート調査を基に、中学校の進路指導が抱える課題解決に向けて各関係機関との協議を行ってきた。以下、その概要を報告する。

#### 2 調査の内容及びその結果考察

##### (1) 中学校卒業生数の年度別推移（表1）

（表1）中学校卒業生数（5月1日調査）（人）

年度	H19	H20	H21	H22	H23
卒業生数	69,475	69,685	72,449	70,681	72,411
前年増減	+813	+210	+2,764	-1,768	+1,730

県内の中学校卒業生数は、平成22年度は減少したが、平成23年度は再び増加に転じた。平成23年度の国公立高等学校の募集定員は、この増加を受け、1,080人の増となった。公立高等学校については、平成13年度より高等学校再編整備計画が進められてきたが、募集人数の調整に当たっては、第1回進路希望調査の結果や生徒の流出入などの地域性を考慮することが望まれる。

##### (2) 過去3年間の進路状況比較（表2）

昨年度、全日制高校や定時制高校、専修学校等への実質進学率がやや減少した。通信制への進学率は増加傾向が続いている。

（表2）3年間の卒業生の進路状況比較

（人）、（ ）：内%

年度	全日制高校 (含高専)	定時制 高校	通信制 高校	特別支援 学校	専修学校 高等・一般	各種学校	職業能力 開発施設	就職者	左記以外	不詳
H21	65,183 (90.0)	1,639 (2.3)	3,072 (4.2)	591 (0.8)	97 (0.1)	82 (0.1)	53 (0.1)	598 (0.8)	1,122 (1.5)	12 (0.0)
H22	63,651 (90.1)	1,592 (2.3)	3,038 (4.3)	616 (0.9)	146 (0.2)	49 (0.1)	44 (0.1)	466 (0.7)	1,066 (1.5)	12 (0.0)
H23	65,198 (90.0)	1,559 (2.2)	3,362 (4.6)	659 (0.9)	125 (0.2)	53 (0.1)	35 (0.0)	475 (0.7)	931 (1.3)	14 (0.0)

「左記以外」（無業者等）の進路選択をする生徒が相変わらず多いことが、中学校現場の指導の困難さを反映している。

### (3) 進路希望調査の比較

県教委が9月と12月の2回、中学3年生を対象に実施する進路希望調査結果を基に、今年度の進路希望状況を把握・分析している。

### (4) 年度末アンケート調査の実施

県下411校の公立中学校に、下記の2種類のアンケート調査を実施し、今年度入試の実態と課題を把握している。

- ア 進路指導アンケート調査（表3）  
イ 年度末卒業生の合否状況・進学状況・就職状況調査

アの調査は、就職・専修各種学校・私立高校・公立高校の入試及び関係事務について、改善の必要性が高い項目について3項目に絞って記入する方式で実施。（表3）の集約結果のように、それぞれの質問項目について、意見数の増減を前年と比較しながら数値としてもまとめている。関係機関との協議では、意見記述と合わせ、これら要望・意見の多い項目が生かせるよう努力している。イは、中学校ごとに数値を入力する調査である。これら

（表3）進路アンケート調査集約結果（％）

項目	H22計	H23計	前年比
学校見学等の日程	12.8	11.1	-1.7
出願	5.9	11.0	+5.1
学校見学等の申込方法	7.3	9.1	+1.8
一括受領	8.8	7.6	-1.2
学習成績評定一覧表	6.0	6.6	+0.6
推薦入学実施要項	5.8	6.1	+0.3
推薦入学	5.0	6.0	+1.0
検定料	8.8	5.8	-3.0
調査書	4.3	4.1	-0.2
言葉による～、面接	4.5	3.7	-0.8

（公立高校集約結果・要望の多い順）

の調査には、中学校からの貴重な「生」の意見・要望を反映させることができる。

### 3 関係機関との協議

上記のような調査・分析を基に、平成25年度入試に向けて、中学校が抱える課題と対策について、各関係機関と協議した。

#### (1) 協議・要望した機関

- ・ 県教委高等学校教育課，財務施設課
- ・ 公立高等学校長会
- ・ 愛知県私学協会
- ・ 愛知県専修各種学校連合会

#### (2) 今年度の主な協議・要望事項

- ア 第1回進路希望調査の結果と地域性を考慮した公立高校募集人員策定  
イ 出願時における待ち時間の改善  
ウ 入学者選抜に関わる諸問題  
エ 学校見学・体験入学の参加申し込みの締め切り日と2学期内での開催  
オ 中学校への訪問回数の縮減  
カ 入試関係事項の一層の改善  
キ スポーツ特待生の公正な扱い

### 4 おわりに

授業料の無償化と長引く不況の影響から、公立高等学校への進学を強く志望する状況が予想される。また、入選協などで、公立高等学校の入試制度の在り方が検討されており、今後も関係機関との協議・調整を続け、改善の方向性を探りながら、生徒にとってよりよい進路指導に努めなければならない。

- (1) 学区、推薦入学、2校受検、入試日程の在り方、その他入試制度の改善に関わる諸課題の検討を進める。  
(2) 全日制・定時制・通信制の進学率の変化や進学希望が増加傾向にある専修学校高等課程、サポート校への対応が課題である。  
(3) 進路指導において、学校ごとに差が出ないよう、情報提供を進める。